

【特集】

# ナイトライブラリー

最近の図書館では「ナイトライブラリー」または「夜の図書館」として、図書館閉館後や夕刻に、家族を対象としたお話し会や絵本の読み聞かせ、映画会、ぬいぐるみのおとまり会などが開催されています。また日中、図書館を利用することができない方々を対象とした、図書館を知っていただくため地域の歴史や課題、名工の話を聞く会などの催しも行われています。

館報 179 号では、県内でナイトライブラリーを行っている図書館の活動を特集しました。





平成 23 年度に開催した「ぬいぐるみのとしよかんおとまり会」が、帰ってきました！

定員 20 名のところ、受付開始後すぐに満員になるほど大人気の子ども向けイベント。その様子をレポートします。

## どんなイベント？

近年、多くの図書館で行われている「ぬいぐるみの図書館おとまり会」。アメリカの公共図書館で普及し、日本でも大人気の本イベントは、以下のような内容です。

“子どもたちはお気に入りのぬいぐるみや人形を持って図書館に集まり、おはなし会などが終わった後に、ぬいぐるみを寝かしつけて一旦家に帰り、翌日に迎えに来るといったものです。子どもが帰った閉館後に、ぬいぐるみが図書館内で本を読んだり遊んだりしている写真が撮られ、自分のぬいぐるみの写った写真が子どもにプレゼントされるということです”

### 【参考】

- ・カレントアウェアネス・ポータル  
<http://current.ndl.go.jp/>
- ・国立国会図書館子ども図書館・  
<http://www.kodomo.go.jp/>

ぬいぐるみが選んだ本を子どもに手渡す所までセットの場合もあります。

日本では平成 22 年 (2010) に「ぬいぐるみの図書館おとまり会」を開催した宝塚市立西図書館が「新たに同館の利用カードを作った参加者もあり、これまで図書館をあまり利用していな

かった層への働きかけができたという手ごたえ」を得たという記事もあります。

また、「イベント性ではなく、一人一人の子どもに本を手渡すことの大切さ」について言及する報告もあります。

図書館として良い効果があり、利用者にも大人気。本イベントを題材にした絵本も作られるなど、まだまだ「ぬいぐるみの図書館おとまり会」の盛り上がりは続いています。

子どもたち自身の分身ともいえる大切なぬいぐるみたちが、夜の図書館にお泊まりして様々な探検をするという疑似体験は、子どもたちをワクワクさせ、図書館をより身近な楽しい場所として感じてもらえるのではないのでしょうか。



寝かしつけ中の仲良し姉妹

## 記念行事として

今回は、岩手県立図書館が入居している複合施設アイーナ いわて県民情報交流センターの開館 10 周年記念企画の一つとして、子どもの読書週間(4/23～5/12)にあわせて開催しました。前回開催時は、定員 15 名の募集でしたが、今回はもう少し増やし 20 名の募集としました。受付を開始したところ兄弟姉妹での参加が複数あったため、「自分だけのアルバム」という喜びを味わっていただくため、写真の構図設定やコメントを少しずつ変更し、A、B、C と 3 パターンのアルバムを準備しました。

## アルバム例 (パターンC)



### おはなし会プログラム

1. 『ドアがあいて…』 大型えほん  
 ・エルンスト ヤンドゥル || 作  
 ノルマン ユンゲ || 絵、齊藤 洋 || 訳  
 ・ほるぷ出版
2. 『くまのコールテンくん』 大型えほん  
 ・ドン フリーマン || さく  
 まつおか きょうこ || やく  
 ・偕成社
3. 「ハンバーグ」 手遊び
4. 『ぬいぐるみおとまりかい』 えほん  
 ・風木 一人 || 作、岡田 千晶 || 絵  
 ・岩崎書店



スポットライトで夜の雰囲気 연출

### 準備が肝心

このイベントは準備が肝心です。  
 おとまり会の翌日の開館時間までに、一人一

人の写真アルバムを完成させていなければなりません。確実に写真アルバムを子どもたちに手渡すためには、事前にアルバム構成や撮影の構図を決めておくほか、それぞれのスタッフの役割分担、タイムスケジュールを明確に決めておき、スムーズに作業を進められるようリハーサルをしておくことも必要です。

特に参加人数が多い場合、一人ずつ・一体ずつを一台のカメラで撮影していたのでは時間ばかりかかってしまいます。そこで、ぬいぐるみを大ききでグループ分けし、複数台のカメラで撮影。撮影班と編集班が同時進行でアルバム作成作業を進めました。

今回は参加者 20 名分のアルバムを、実質 3 名で 5 時間かけて作成 (twitter へのアップ作業含む) し、予備時間も含めて想定していた時間内に何とか収めることができました。



ぬいぐるみが出てくる大型絵本

## 広報について

他のイベント同様、館内掲示、ホームページ、twitter、メールマガジンを活用して広報を行いました。当日は「ラヂオ盛岡」の取材が入り、インターネット新聞「盛岡経済新聞」でも取り上げてもらいました。また、twitter でイベントの様子を写真付きで即時アップしたところ、非常に大きな反響がありました。



当館のキャラクター「そめちゃん」のつぶやき

## 今後の展開

イベント翌日、引換券を手に、ぬいぐるみをお迎えに来た子どもたちにアルバムを手渡ししながら「いっぱいお手伝いしてくれたよ」と声をかけると、どの子どもたちもご家族も、とても喜んでくれました。

今回、貸出用に関連絵本を用意しましたが、次回は「ぬいぐるみの選んだ本」を一人ひとりに手渡せるよう準備して開催したいと思います。



カウンターの前に関連本を展示



## 当日のタイムスケジュール

前日 2016. 5/6 (金)

おはなし室 児童カウンター横	<b>*おはなし室準備 (題字・毛布・関連本 20冊程度)</b> <b>*受付準備</b> (名簿/番号札/長テーブル1台/ミッフィー/カメラ2台/ イベント看板2本/「受付」と「準備中」の表示)	出勤している人
-------------------	---	---------

当日 2016. 5/7 (土)

14:00～ 14:30	児童カウンター脇	<b>*受付開始</b> ・受付者は名前を確認し番号札を2枚渡し、左右に子どもを振り分け。 ・左右の撮影者2名がぬいぐるみを持っている子どもを撮影(表紙/ぬいぐるみに付けた番号札が見えるように) ・おはなし室へ案内…カメラ①・②	受付: A 撮影: B・C お話し: D
14:30～ 15:00	おはなし室 児童BY	・おはなし会が始まる前に「写真を撮っていない子」を確認して、受付写真を追加撮影…カメラ①・② →撮影後に即、カメラ①・児童BYでデータ落とし込み(フォルダ「1.写真撮影」) <b>*おはなし会 スタート*</b> ・おはなし会の撮影…カメラ② ・最終話「ぬいぐるみおとまり会」後、みんなで毛布を敷き、ぬいぐるみを寝かせる。 →「おやすみなさい」の挨拶をして、電気を薄暗くし、B(カメラ②)・C&子どもたち退室 →統計入力等。	お話し: A、C、D データ: B お話し撮影: E
15:00～ 16:00	おはなし室	<b>*アルバム班、撮影開始</b> ・おはなし会・集合写真(中面1) ・ぬいぐるみ一体ずつの個別写真(裏面)を撮影…カメラ①	アルバム班: A、B
15:00～ 15:30	事務室	<b>*アルバム作成(表紙)</b> ・カメラ②のデータで、(フォルダ「2.アルバム編集集中」)	C
16:00～ 18:00	ミニシアター 事務室 集密 3Fブックポスト 児童BY 事務室	・映画会(集合写真@ミニシアター/中面2)…カメラ① ・撮影後、事務室でデータ落とし込み。 →ぬいぐるみを大きさを10体ずつ2グループに分け、 大(集密/中面3A・ブックポスト3F/中面4A)…カメラ① 小(集密PC/中面3B・児童BY/中面4A)…カメラ② ・随時アルバム(中面・裏面)作成。	A B A B C
～18:30	おはなし室	・会場、受付等を片付ける。	A
～19:00	事務室 事務室 事務室	・アルバム作成(裏面)終了後、フォルダ「3.印刷OK」に移したものを随時印刷。印刷後、フォルダ「4.印刷済」へ。 ・その他の写真を当館twitterにアップ。 ・引渡し準備:ぬいぐるみとアルバムをセットにする。	C B A
～19:50		・予備時間	



みんな仲良くおやすみ中



ぬいぐるみたちによる読み聞かせの様子

## 図書館ナイトツアーに行ってみよう！

<岩手県立図書館>

### 図書館ナイトツアーって何だろう？

岩手県立図書館では、年間を通してさまざまな内容の「図書館見学」実施しています。

例えば、図書館の蔵書検索機を使ってみるもの、普段入ることのできない“ひみつの書庫”にしまっている絵本を自分で選ぶことができるもの・・・そのなかでいつも大人気なのが“夜の図書館”を見学するツアー、「図書館ナイトツアー」です。

開催のきっかけは、図書館を利用する方の「夜の図書館ってどうなっているの？」という何気ない言葉でした。図書館で働いていると、たまに本や図書館が大好きで「図書館に泊まりたい！」という方と出会うこともあります。



集合はコンシェルジュデスク前です

でも、待つ。その前に夜の図書館、そして普段は職員以外立ち入ることのできないスペースはどうなっているか、本に囲まれたひみつの空間、すなわち「書庫」はどうなっているのか見てみたいと思いませんか？

そのような想いから生まれたのが、今回ご紹介する「図書館ナイトツアー」です。

昼間の明るい図書館しか知らない子どもたち、そして、本の匂いがして、少しだけおぼけが出そうな雰囲気、昔の県立図書館を知っている

大人の方もいるかも知れませんが、懐かしい本を探しながら、本にまつわる思い出や、まだ知らない夜の図書館の顔を皆さんに見ていただきたいくて、ナイトツアーの実施が決まりました。



ひみつの書庫をたんけん中

### 岩手県立図書館の取り組みについて

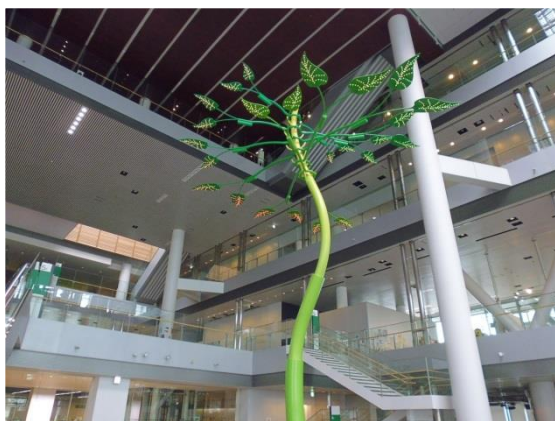
岩手県立図書館の「図書館ナイトツアー」は、2012（平成24）年から開催しています。

これまでは一年に一度だけ、夏の夜に1日だけの開催でしたが、今年は7月16日（土）、三連休初日の18時30分から行いました。事前申し込み不要、当日集合のイベントであったため、参加してくれる方がいるのかどうかドキドキでしたが、ツアー開始時には大人から子どもまで14名の参加者が集まりました。

イベントは毎年夏休み前後に実施していることもあり、家族や友人と一緒に参加する方が目立ちます。今年は赤ちゃん連れの方、ご夫妻で参加された方もおり、さまざまな年齢の参加者同士で、和気あいあいとした雰囲気のなか、図書館見学を行いました。初めて会った方同士、すぐに仲良くなれるのも県立図書館を見学される方の特徴です。

### 当日の様子

今年は図書館内の書庫をはじめ、普段は映画会でのみ使用するミニシアター、また図書館の上の階から見る、アイーナのエレクトリックツリーを見学しました。



エレクトリックツリー 大きい！！

アイーナは8階建てで全面が強化ガラスで覆われており、エレクトリックツリーはなんと、その吹き抜けにあるんです。ツリーを含め、アイーナ内には10ものアート作品があり、そのひとつである「葉っぱの色が変化するととても大きな木」のひみつも皆さんと発見することができました。当日参加した方からは「いつも同じ時間に図書館へ来るからツリーのひみつを知らなかった」、「とてもきれい。夜はガラスにツリーの色が映ってきらきらしている」などの感想をいただきました。

また、日が沈んだあとの書庫探検では「しんとしている。おぼけが出そう」、「すごく暗い」、「まえに昼間の書庫を見学したときと雰囲気が全然違う」と、本に囲まれた空間がまとう、夜だけの独特の書庫の空気を話してくださる方もおりました。



本が自動で運ばれてくる機械もあるよ

そして今回のナイトツアーは、最後に職員が図書館で経験した“こわ〜い体験”を皆さんに

特別サービスでお話して、終了です。帰り際には「すごく面白かった」、「また夜の図書館に来てみたい！」という声が多く聞かれました。

「普段入れない書庫がこんなに広いなんて知らなかった」という方もおり、なかには「次のナイトツアーはいつ？絶対また参加する！」という子どもも。ナイトツアーをご案内したコンシェルジュとして、参加いただいた方々からさまざまな感想を伺うことができ、とても嬉しいひとときでした。

## 夜だけの図書館を歩く、特別感

「図書館ナイトツアー」を開催するにあたって、いつも気をつけていることは「参加者に楽しんでいただく」ことと、「夜だけの図書館を歩く特別感」を演出することです。

その他にも、例年夏休み前後に開催することから、地域のイベントとなるべく重ならない日程を組むこと、また、小さなお子さんを連れていても出歩ける時間帯に設定することなどを心がけています。イベントの開催を決めてからの広報も、そのようなところに力を入れて皆さんにご案内しています。

次の開催は未定ですが、たまには昼だけではなく、このように夜の図書館を探検する機会があってもいいのかな、と担当同士で相談しあって、いまは次のナイトツアーを開催するタイミングを考えています。

県立図書館には皆さんが知らないところがまだまだたくさんありますので、開催のお知らせを見かけたら、ぜひご参加ください。夜だけのひみつの図書館を、「ナイトツアー」に参加した方へ特別にお見せします！



コンテナの中に本がたくさん！

## 夏の夜のこわいおはなし会

<雫石町立図書館>

「次はどんなおはなしがいいかな？」

「こわいおはなしして～」

出前おはなし会の一コマ。子どもたちはこわいおはなしが大好きです。

瀬田貞二は「行きて帰りし物語」—— 子どもたちは物語の中で冒険して成長して帰ってくる、と仰ったそうですが、「こわいおはなし」はまさに大冒険！ 当館では夜の行事として平成 25 年度から「夏の夜のこわいおはなし会」、平成 27 年度から「夜の図書館ぶくぶくブックかふえ」を始めました。今回は、こわいおはなし会についてご紹介します。

### はじめたきっかけ

当時、ボランティアの例月おはなし会は、少子化と共働きの波を受けて参加が減少傾向、どう参加者を増やすか頭を痛めていました。

また、国際子ども図書館でおはなし会は職員の仕事と伺ってから、図書館員がおはなし会の現場に立つことが大切であると考え、出前おはなし会を始めたのですが、全員で携わる機会を作りたいと思っていました。

そこで、考えたのが閉館後の夜に開催する「夏の夜のこわいおはなし会」。実は、文庫活動をしている先輩のところでモデル事例があり、毎年数十人が参加するので、雫石でも参加者が集まるのではないかと考えました。

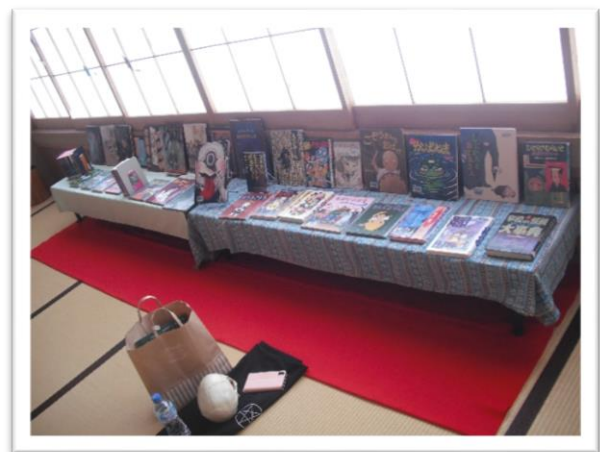
早速小学生向けおはなし会を担当しているボランティア「おはなしの雫」に相談し、共催の形で開催が決まりました。

### 計画・準備

教育広報に掲載したほか、小学校にご協力いただき、町内の全小学生にチラシを配布。

夜間開催なので、必ず保護者同伴とし、時間も 19 時から 1 時間と設定。大人も「特別 OK」としました。

会場は図書館と併設の公民館の和室。築 30 年のほどよく古びた和室には、ボランティアさんが持ち寄った一反木綿や骸骨を飾り付けました。窓際に「こわい本」の展示コーナーを設け、床の間の前に緋のもうせんを敷き、語り手の椅子を置き、絵本が見えるようにスポットライトを二つあてたら、後ろに黒い大きな影が二重にうごめき、思いがけない怖さが生まれました。これで準備万端。



こわい本の展示コーナー (H28.7.23)



語り手用のいすと紙芝居用の台。ライトの影が思わぬ怖さ。(H27.7.25)



## いざ、開幕「夏の夜のこわいおはなし会」

何人来るか不安でしたが、蓋を開けたら、開始時間になってもなお、受付には長蛇の列。ようやく全員が座り、10分遅れで開会。図書館員4名とボランティア2名で読み聞かせや紙芝居、ストーリーテリングなど8話のおはなしをしました。プログラムは、後半に行くほどだんだんこわくなる仕組み。小さいお子さんもいるので、途中の出入りも自由としました。



黒いマントを着て、こわい絵本の読み聞かせ  
(H25.7.29)

初回参加者は子ども54名、大人31名、計85名、語り手と合わせて91名！

ボランティアさんも、会場を埋めたお客様に大喜びし、手ごたえを感じたようです。



会場はほぼ満席。後ろは椅子席を準備  
(H25.7.29)

すぐに来年もやりたいという話になり、翌年からは、小学校のほか保育園・幼稚園・中学校までチラシを配布しました。

4回目となった今年は、6月に立ち上がった図書館サポーター「図書サポ」が飾りつけを担当。壁や天井までおぼけ、おぼけ、おぼけ…。参加者も大台を突破し、子ども64名、大人40名、スタッフ9名、合計113名！大入り満員御礼！下は、今年のおはなし会のプログラムです。

夏の夜の2016 怖いおはなし会

7月23日(土) 17時～21時(6時半～開場)  
〒500-8501 京石町中央公民館 2階 講堂(和室)

プログラム

- 1 落語絵本 ばけものつかい 岩持洋子\*  
川端誠 著 クレヨンハウス
- 2 かっぱのカツパ 小田 雅子\*  
おもしろ落語絵本「ごくらくご」より 文 柱文壮 小学館
- 3 のっぺらぼう 大塚田 知香子\*  
日本の民話かみしほい通 おはなしかいっばい  
浪谷勤 脚本 童心社
- 4 あずきとき 佐々木 泉  
京極夏彦 作 岩崎書店
- 5 ロンと溝からきた道徳 藤澤 麻子  
チェン ジャンホン作 絶頂書店

主催 京石町立図書館 おはなしの会(\*)

ありがとうございました

1と4は絵本、2は朗読、3は紙芝居  
5はストーリーテリング

## 開催してみて

小学生が多いですが、乳幼児から熟年層まで幅広い参加があります。夜に、親子で一緒にどきどきしながらおはなしを共有する体験は、親子のコミュニケーション促進の一助になっています。休憩も入れずに1時間、小さいお子さん

も、家族と一緒にだからか、最後までしっかり聞いています。

参加されたお父さんから、後日、「あの話はほんと怖かった」と仰っていただいたり、日程が近づいてくると、「今年も行きます！」等お客様に声をかけていただくのも嬉しく、すっかり「夏の定番」として定着したようです。

昨年度から、会場での「こわい本」の展示に加え、終了後に開館、貸出サービスを始めたところ、「うそっこの話じゃなくて、ほんとにあったこわい話の本、ある？」と、聞いてきた子どもがいました。利用登録して借りるお客様も複数おり、新規利用者を広げる機会にもなることがわかりました。「こわいおはなし」は日頃図書館を利用しない方にも魅力的だったようです。



部屋のあちこちに「図書サポ」のしかけた「おばけ」。ストーリーテリングでは「スプリングドラム」と「レインスティック」という楽器を使用。終了後、子どもたちに楽器を体験してもらいました。(H28.7.23)

## 今後のこと

楽しい、面白い、感動する…そんな「おはなし」の魅力を伝え、読書につなげるのが、「おはなし会」の役割です。

「夏の夜のこわいおはなし会」をひとつのきっかけに、親子の絆を深めていただき、また、読書につなげて、魅力ある本をたくさん提供できる図書館にしていきたいと思います。

ちょうどいまプチ改造をして、児童コーナーに素敵な自然科学の棚ができ、利用者からも好評です。

図書館は本の世界と出会えるところ、好奇心でわくわくするところ、そう感じていただけるよう、日ごろの選書や配架など工夫していきたいと思います。

下記ページに催しの報告を掲載しています

<http://www.town.shizukuishi.iwate.jp/docs/2016072600022/>

## 夏の野外映画会への取り組み

<八幡平市立図書館>

### 開催のきっかけ

夏の映画会は夏休みの子どもの向けの行事の一環として、平成20年度から継続して実施しています。平成24年度までは8月の第一金曜日に開催していましたが、工作教室や図書館体験など、他の夏休み行事のPRを兼ねたいと考え、平成25年度以降は開催日を夏休み直前の7月第三または第四金曜日に変更しました。

夜間・屋外での映画会を始めたきっかけは、中央地域視聴覚ライブラリー(中央ライブラリー)からの提案でした。それまでも夏の映画会は開催していましたが、夕方に会議室で上映するスタイルでした。中央ライブラリーの担当者から「野外映画会も楽しいですよ」、「機材の貸し出しや上映ボランティアも派遣できます」との後押しを受け、夜の屋外映画会の開催を決めました。

また、当地域(八幡平市西根地区)では長らく公民館活動の一環として保育園等への出前映画会を実施しており、子どもたちは既に16ミリフィルム映画をたくさん鑑賞しています。このため、従来どおりの映画会では子どもたちの関心を引くことが難しいという背景もありました。

### 映画会の準備

映画会当日は18時頃から準備を始めます。中央ライブラリーから派遣されたボランティアさんに映写機やスクリーンを設置してもらい、職員が客席の準備をします。

中央に映写機を配置し、建物の軒下にスクリーンを張ります。客席はブルーシートの上に椅子とお話室の子ども用ベンチを並べ、約40人分の席を確保しています。



スクリーン設置の様子



会場の全景

夜の映画会を開催するにあたり最も気を配っているのは、参加者の安全の確保です。日没時間の関係で19時半から20時半までの遅い時間帯に子どもたちが集まるので、駐車場内や車道での事故に気をつけること、参加者全員の帰宅を確認すること、この2点に特に気を付けています。

安全確保については、敷地内での事故の防止策として、映画会開始に合わせ自動車の出入りを禁止しています。当館の駐車場は通り抜け可能な形になっているため、事前に隣接する施設にも協力をいただいて通り抜けを制限しました。

野外映画会開催当初は市民センター駐車場に車を止め、徒歩で移動してもらっていましたが、しかし、少し距離があり、交通量が多く横断歩道が無い道路を横切らなければいけませんので、最近では、開始時間まで図書館の駐車場や、隣接する市の職員駐車場に職員が誘導するようにしています。

参加者全員の帰宅を確認する方法としては、当日の受付で整理券を配布し、帰りに参加賞と交換することにしました。参加賞は消しゴムはんこを押した手ぬぐいやプラ板のしおりで、職員が手づくりで制作したものです。

しおりは、はんこのほかにマニキュアやラメで装飾し、同じものが無い、色々なデザインを用意しました。さっと好きなしおりを選ぶ子や、目移りしてなかなか決められない子、親子であれこれ悩む姿が見られるのは、手作りならではの良さだと思います。映画会で配ったしおりを使っている姿を見かけると、準備は大変ですがやって良かったと感じます。



プラ板のしおり  
(消しゴムスタンプで装飾しています)



好きなものを選んでね

屋外で事業を実施する上で最も大きな問題は天気と気候です。雨天の場合はお話室で上映することにしてはいますが、屋内開催の年は例年と比べて参加者がかなり少なくなります。(できるだけ屋外で開催したいので、1ヵ月ほど前から

天気予報が気になります。最近では、インターネットで雨雲レーダーの情報を確認しています。)

また、野外映画会は風の影響も受けやすいので、スクリーンを設置する際に脚部を杭に固定したり、上部にひもをかけたしたりするなどの工夫をしています。そのほかにも、日によって寒かったり虫が多かったりなどしますが、防寒や虫除け対策は基本的に参加者に任せています。

上映作品を決める際は、中央地域視聴覚ライブラリーの視聴覚教材目録を参考にし、季節感のある作品や、原作の絵本があるものなどを選んでいきます。原作絵本がある場合は、事前に関連作品の展示をしています。

夏の夜、というシチュエーションを活かして怪談話を上映すると、とても盛り上がります。たまに小さい子が怖がって泣いてしまう事もありますが、お母さんと一緒なのですぐに落ち着いて残りの映画を楽しんでいる様子でした。

プログラムを組む際には、明るい内容の映画を最後に上映して子どもたちが楽しい気持ちで家に帰れるように考えています。

## 映画会の様子

参加者は2、3歳くらいから小学校低学年くらいの年頃の子どもが多く、兄弟で参加しています。また、祖父母と一緒に参加する子もよく目にします。家族で参加できる夜の図書館行事として定着してきました。



映画会終了後、玄関で引換券と参加賞を交換

映画会の終了時間が20時半を超えるため、参加者からの意見をゆっくり聞く機会がなかなか無いのですが、参加者からは、「夜の映画会はめずらしいので、毎年楽しみにしている」、「夏休みで帰省しており参加してみた」という市外に住む方の声や、浴衣姿の女の子を連れてお母さんからは「お風呂上りの夕涼みに映画を見に来ました」という話を聞くこともありました。上映時間が1時間ほどもあるにもかかわらず「もっとたくさん見たかった」という3歳くらいの女の子の意見もありました。

## 過去5回の参加人数

	H24	H25	H26	H27	H28
幼児	10人	4人	19人	9人	13人
小学生	11人	7人	5人	8人	9人
大人	19人	14人	18人	12人	16人
計	41人	25人	42人	29人	38人

※H25とH27は雨のため室内で開催

## 今後のこと

夏の映画会に集まる参加者の中には、図書館にあまりなじみのない方々もいます。このため、夏休みの子ども向け企画の参加者を募ったり、図書館活動のPRをしたりする場としても活用したいのですが、暗い中での呼びかけは効果が計りにくいというデメリットも存在します。人が多く集まる場をどのように活用していくかが、映画会の今後の課題です。

「みんなで映画を楽しむこと」と「夏にしかできない夜間行事を図書館で開催する」という2つの特徴を持った夏の映画会も、まもなく10回目を迎えようとしています。図書館利用者の認知度が上がり、毎年参加してくれる家族も増えてきました。

「夜の屋外映画会？めずらしいね、楽しそう」と参加してくれるみなさんに、本や読書だけじゃない図書館のおもしろさに気付いてもらい、図書館が身近な存在であることを伝えられる場と信じて、これからも夏の映画会を続けていきたいです。

映画会の様子を YouTube で公開中

<https://www.youtube.com/watch?v=lwsKHkN-SBOU>



## 夜のとしよかん

<紫波町図書館>

### なぜ「夜のとしよかん」をはじめたか

紫波町図書館では、毎月開催する企画展示やイベント等、「情報と人をつなぐ」だけでなく、人も情報として捉え「人と人をつなぐ」ということを第一に考えた取り組みを行っています。利用者の知的好奇心を満たし、文化的、娯楽的活動による新しい交流が生まれるための情報を提供するためには、どういった取り組みを行っていけばよいかを考えた結果、生まれたのが「夜のとしよかん」というトークイベントです。

日中は図書館になかなか足を運べない働き盛りの方を対象に、職場でも家庭でもない第三の場所、サードプレイスとなる場を創るという考えのもと、いつもの図書館とは違った雰囲気の中で参加型トークイベントを行うことで、今まで来館したことのない方にも図書館に親しみをもってもらいたいということから始めました。



三川  
紫波町図書館  
SHIOYOKAN LIBRARY

夜のとしよかん、  
第7夜。

のみもの持ち込み、おしゃべり自由。  
日中いそがしいあなたと、わくわくをシェアします。  
いつもと違う図書館で、いつもと違うひとときを。

第7夜 6月15日(水) 19:30 ~ 20:30  
場所 紫波町図書館 一般フロア  
(通常通り 19:00閉館後、19:25頃から開場します)

「紫波にいた！ 船筆筒職人」  
ゲストスピーカー 木戸 良氏  
(船筆筒職人 筆筒工房「はこや」)

定員 先着50名 申込不要 問合せ 紫波町図書館 019-671-3746

「夜のとしよかん」ポスター  
第7夜 紫波にいた！船筆筒職人

### 「夜のとしよかん」具体的な内容

平成26年5月からスタートした「夜のとしよかん」は、年に4回(春夏秋冬)開催しており、今年度で開催回数10回を超えました。図書館閉館後、普段は企画展示を行っている一般フロアを使用し、ゲストスピーカーを招いて、テーマに沿ったお話をさせていただきます。トークテーマやゲストは、紫波にゆかりがあり、全国でも高い評価を得ている方等をお願いしています。「飲みもの持ち込み、おしゃべり自由」というコンセプトのもと、ゆったりと寛いだ雰囲気の中で行うイベントです。



「第7夜 紫波にいた！船筆筒職人」の様子

### 夜間の開催で工夫していること

日中とは違った雰囲気づくりのため、図書館入り口から一般フロアまでの通路は、蛍光灯を消してランタンを灯します。また、当館ではフロア内にBGMを流していますが、「夜のとしよかん」開館前までの時間はBGMをジャズに変えています。図書館に隣接したカフェと連携し、参加者はドリンクを50円引きで購入し、持ち込めるようにするなどのサービスもしています。

会場には一般フロアを使用しています。高い天井は音響効果も良く、今年度、「オガール祭り編」でサイレント映画ピアニストの柳下氏をお迎えした際には、ピアノの豊かな響きと質の高い演奏を堪能していただくことができました。



ランタン点灯の様子



オガール祭り編  
「映画館の楽士が奏でるゴーシュの世界」紙芝居にあわせたピアノ伴奏、紙芝居『ゼロ弾きのゴーシュ』

## 参加者の感想や反応

「夜のとしょかん」では今後の活動の参考にするため、トーク終了後、参加者にアンケートを記入していただいています。夜間の開催にも関わらず、町内だけでなく半数近くの方が町外からの参加という回もあり、このイベントに対する関心は高いと感じています。ゲストスピーカーのトークについて「とても良かった」、「もっと回数を増やしてほしい。」との回答が多数あり、また、今後のテーマや講師の希望等たくさんの意見が寄せられ、図書館のイベントとして定着してきていると実感しています。

## 今後の「夜のとしょかん」

これからも参加者からの意見を参考にしながら、大人の知的好奇心に応えられるように努めるとともに、新しい知の交流の場として、図書

館に魅力を感じていただき、紫波の暮らしが楽しくなるよう「夜のとしょかん」を続けていきたいと思ひます。



イベントのご案内（紫波町図書館 HP）

<http://lib.town.shiwa.iwate.jp/>

## これまでの「夜のとしょかん」開催内容

月日	内容／ゲストスピーカー
H26 5/29	第1夜「知って得するめっちゃ面白い農の話」 河野 和宏 氏（しわ・まちコーディネート代表理事）
8/1	第2夜「知って得するめっちゃ面白い星の話」 八木 淳一郎 氏（八木クリニック院長）
10/28	第3夜「現代の手仕事の話」 久野 恵一 氏（手仕事フォーラム代表） 小田中 耕一 氏（染工房小田中）
2/26	第4夜「現代の名工が語る日本酒のはなし」 藤尾 正彦 氏（あさ開参事兼社氏）
H27 5/26	第5夜「企業世話人セキヤンが語る経営の話」 関 洋一 氏（オフィスせき代表）
7/30	特別編 「町内の戦争体験者が語る私たちのまちにもあったこと」 石杜 祥夫 氏、瀬川 智子 氏、高橋 良雄 氏 聞き手：長澤 聖浩 氏
10/8	農業編 「今日もバイクで営業中！『現代農業』のつくりかた」 柳島 かなた 氏（農山漁村文化協会 普及局）
3/23	第6夜「生誕130年 啄木と紫波の人々」 森 義真 氏（石川啄木記念館長） 山田 武秋 氏（桜出版代表取締役）
H28 6/15	第7夜「紫波にいた！船筆筒職人」 木戸 良平 氏（筆筒工房はこや）
8/6	オガール祭り編 「映画館の楽士が奏でるゴーシュの世界 賢治と嘉藤治生誕120年」 柳下 美恵 氏（サイレント映画ピアニスト）
9/10	第8夜「『つなぐビール』サイドストーリー」 鳥田 洋一 氏（ベアレン醸造所 専務取締役） 高橋 司 氏（ベアレン醸造所マーケティングチーム部長）

## ナイトライブラリー・

### 図書館おばけ屋敷

<宮古市立図書館>

今年度で2回目を迎えた「ナイトライブラリー・図書館おばけ屋敷」は昨年度、読み聞かせボランティアグループ「おどつつあんS」の発案で生まれました。「夜の図書館で何かしたい」ということで、「こわい話のおはなし会」と「おばけ屋敷の中でスタンプラリー」が同時進行する内容に決まりました。

#### 準備・参加者募集

昨年度の開催日は、お盆に近く、17時に閉館できるということで、8月6日（日）に決定。「17時に閉館してからの準備の時間」、「日没時間」、「21時には終了」の3点を考慮して18時30分開始とし、各回1時間で2回実施することにしました。参加対象は小学生の親子で幼児も同伴可。定員は各回30組（今年度は20組）で、定員を超えた場合は抽選としました。

1回目開始時刻の18時30分では館内はまだ明るく、非常灯もありますので雰囲気がないのではないかと考え、赤いセロファンを非常灯に貼りました。ところが、いざ申し込みを開始してみれば「暗いと怖い」という理由で1回目の方が人気でした。



発泡スチロールで作ったおはか

昨年度は定員を30組としましたが、参加人数が多く（126人）大変だったため、今年度は20組に減らしました。ところが、今年度の参加人数は136人と、昨年度より多くなっています。どうやら、「お友達と一緒に」ということで、1組あたりの人数が多くなったようです。

#### こわい絵本の読み聞かせ

おはなし会は2階会議室で行い、1時間絵本を読み続けます。途中、参加者を受付順におばけ屋敷に案内し、無事脱出できた参加者で希望する人は、また戻って、お話を聞きます。当初は、おばけ屋敷を出たらそのまま帰る人が多いのではないかと思っていたのですが、ほとんどの参加者がお話を最後まで聞いていました。

会議室には古い障子を立ててスクリーンにし、プロジェクターで絵本を映しました。さらに、床には柔道の試合用畳（15枚）を敷き、読み手の周辺以外の照明を消しました。



高校生ボランティアによる読み聞かせ

昨年度はボランティアの一人がお坊さんに扮して読み聞かせをしたのですが、今年度は市内のお寺の副住職さんが来て、ご自身の体験談をお話しして下さいました。どちらかと言えばありがたいお話でしたが、本物のお坊さんのお話とあり、大人にもインパクトがあったようです。

おはなし会で1時間は、かなり長いと思いましたが、幼児も含め、70人ほどの子どもが夢中になって聞き入っている姿はちょっと感動モノ



でした。もちろん、おどっつあんSのメンバーが飽きさせないようプログラムも工夫していたのですが、部屋の雰囲気やこわいおはなしの魅力は大きいと改めて感じました。

## 図書館おばけ屋敷

おばけ屋敷へは、おはなし会の最中に、受付で渡した番号札の番号順に2組ずつ連れて行きます。エレベーターの前で待機し、1組ずつ1階に降りますが、待っている間に1階から聞こえる悲鳴が絶妙の効果音になっていたようです。

おばけ屋敷の中は、書架を暗幕などで区切って迷路にしてあり、途中でおばけが出てきて参加者を脅かします。脅かし方も、昨年度は「書架から手を出す」といった簡単なものでしたが、今年は冷却スプレーやイベントで鮭汁を作っている本物の大釜、ドライアイスまで使用するという本格的(?)なもので、就学前の子ども達の号泣が続出しました。



書架のお化け屋敷



びっくりする親子

おばけ屋敷の中で探す3枚のお札の場所は、受付で渡した番号札の裏に「ブラックライトペン」で書きました。おばけ屋敷の入り口にブラックライトを設置し、番号札の裏を照らすとヒントが出てくる仕掛けです。

## ボランティアの協力

今年度は、仕掛けに使った道具類の作成や当日の準備、おばけ役まで、インターンシップの学生や教職員10年研の先生などにもお願いし、職員の負担を軽減することができました。

その他、共催のおどっつあんSやMYK48(中高生読み聞かせボランティア)など、たくさんのボランティアにも楽しみながら協力いただき、参加者にも喜ばれ、大成功で終了しました。

読み聞かせだけでは、こんなにたくさんの人数に参加していただくことは難しいですし、初めて図書館に来たという参加者もあり、夏のお薦めのイベントだと思います。

## こわい絵本で読んだ本

あずきとき	京極夏彦, 岩崎書店
いるのいないの	京極夏彦, 岩崎書店
ちょうつがいきいきい	加門七海, 岩崎書店
さらやしきのおきく(紙芝居)	童心社
ことりぞ	京極夏彦, 岩崎書店
とうふこぞう	京極夏彦, 岩崎書店
かがみのなか	恩田陸, 岩崎書店
のっぺらぼう	杉山亮, 岩崎書店
つくもがみ	京極夏彦, 岩崎書店
やまびと	柳田国男, 汐文社
はこ	小野不由美, 岩崎書店
ママがおばけになっちゃった	のぶみ, 講談社